The forter	+1- t-1-	45		活動	の状況		\\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \		成果					- ===		**** • W • == IT
政策	施策	柱	大変順調	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ ばれ		活動の評価	指標 度 B H27年 H28年度 対前年度比						の評価	施策の総合評価		
1 安心して生 み育てるこ とができる		① 安全に安心して妊娠・出産できる 環境づくり	1	9	0	0		妊娠11週までの妊娠届出者 の割合 堆	增加 9	ł.2% 93	3.8%	4.0% 0.2 pn	2			[指標の説明] *妊娠11週までの妊娠届出者の割合は、前年度比 増で、かつ90%超の高水準となっている。
環境づくり		② 発達の気になる子どもの早期発見、 早期支援体制の強化	0	2	0	0	1	生後4か月までの乳児家庭訪問の割合 増	増加 8	6.8% 93	3.0%	5.2% 2.2 pn	2	2		*生後4か月までの乳児家庭訪問の割合は、2年連続で上昇。 *「10代の人工妊娠中絶率」は、前年度並み。
		③ 養育支援の必要な家庭に対する 支援の充実	0	8	0	0		10代の人工妊娠中絶率 源	減少 16	.0‰ 13	3.7‰ 14	4.1‰ 0.4 pnf	3			[評価]▶10代の妊婦を含む妊産婦と乳幼児の健康管理や、養育支援が必要な家庭に早期に関わる取組みも順調である。また、新たに若年の妊産婦や産後う
		④ 基本的生活習慣の定着や食育の推進	3	7	1	0	32/33事業								B	つなど、養育支援を必要とする家庭に対して、育 児専門の訪問指導員を派遣し、育児・家事支援を 行う事業を開始するなど、妊娠期から子育て期に わたる支援の充実を図り、効果的な支援を行う
		⑤ 適切な思春期保健の推進	1	1	0	0										ことができたと考えている。 [今後の方向性] ▶今後も、子育ての孤立化を防ぎ、地域での見守り
		Ē	5	27	1	0	97.0%									体制を充実していくために、関係機関と連携して、 母子の健康保持・増進を図り、安心して生み育て ることのできる環境づくりを進めていく。
	(2) 母子医療	① 周産期医療・小児救急医療体制の 維持・確保	2	3	0	0	1	周産期医療、小児救急医療体制	維持	持	推持 #	維持 — —	1	1		[指標の説明] *市立医療センター総合周産期母子医療センター 等4病院を中核とした産科連携体制を維持。 *市内医療機関の連携による24時間365日対応の 小児救急医療体制を維持。
		② 子どもの感染症予防の推進	0	1	0	0									A	[評価] ▷引き続き、周産期・小児救急医療体制を維持した ことにより、市民に大きな安心感を与えることが できており、本市の子育て環境の高評価につな
		③ 不妊治療に関する支援の充実 および市民の理解促進	0	1	0	0	7/7事業									がっている。 ≫また、不妊治療の助成拡充や、子ども医療費 支給制度の対象年齢の拡大にも取り組んだ ところであり、支援は順調に進捗している。
		<u>=</u>	2	5	0	0	100%									[今後の方向性] >引き続き、医師の確保などにより、支援体制の 維持を図っていく。
	(3) 子育ての悩みや不安	① 地域における子育て支援の環境づくり	10	33	4	1		子育ての悩みや不安を感じる 人の割合 (i) 就学前児童	減少 2	5.6% 23	3.9% 2	5.9 % 2.0 pn	3			[指標の説明] ※子育ての悩みや不安を感じる人の割合は、前年度 比増となったが、過去3年間でみると概ね同水準で 推移している。
								(ii) 小学生 湄	減少 3	0.2% 29	9.4% 3	0.0% 0.6 pnf	3			[評価] >親子ふれあいルームの運営や地域の子育て支援 団体の活動支援、子ども・家庭相談コーナーや
		② 市民が利用しやすい相談体制	1	7	0	0	2	(iii) 中学・高校生 漏	減少 3.	2.9% 28	8.1% 2	9.9 % 1.8 pn	3	_		子育て支援サロン「ぴあちぇーれ」における相談 対応などの件数はいずれも増加しており、市民の 子育ての悩みや不安の解消に、寄与することがで きたと考えている。
		③ 必要とされる子育てに関する情報が 市民に届く仕組みづくり	0	5	0	0		子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合 (i) 就学前児童	増加 5	.3% 49	9.0% 4	7.6% ▲ 1.4 pnf	3	3	С	一方、子育てが地域の人に支えられていると感じる 人の割合は、減少傾向にあるが、 「女性の社会進出、生活様式の変化等により、地域と
								(ii)小学生	增加 6	1.0% 64	4.2% 6	1.1 % ▲ 3.1 pm	3			の関わり方にも変化が生じている。」「家族間・保護者 同士のつながりに加え、幼稚園や保育所などとの関 わりは高まっている。」という意見もあり、近所づきあ
		④ 少子化への対応や多様化・複雑化した 悩みへの支援	3	7	0	0	66/71事業	 (iii) 中学・高校生 増		67.1% 6	1.1% 6	0.9 % ▲ 0.2 pn	.2 pnt 3			いに代わる、様々な形での支援が広がっているとも 考えられる。 [今後の方向性]
		Ē	14	52	4	1	93.0%									>引き続き、子育ての悩みや不安をできる限り減らすことができるよう、これまでの取組みをさらに推進していくとともに、さらなる周知を図っていく。

政策	佐空	 		活動	の状況		活動の部件		成果技	指標 26年 F	107年「		武田	の歌舞		施策の総合評価	
以束	施策	1生	大変順調	順調	やや遅れ	遅れ	活動の評価	指標		度	度 ''全中' 対前年度比		以来(の評価			
安心して生 (4 み育てるこ とができる	⁴⁾ 家庭の教育 力の向上	子どもの健全育成の基礎となる	2	11	0	0		童の割合(就学前児童)	100% 78 29年度】	3.2%	93.8%	93.0% ▲ 0.8 pnt	3			[指標の説明] *朝食を毎日食べている児童・生徒の割合は、	
環境づくり		▽ 家庭の教育力の向上	_			v		就寝時間が午後10時以降の 児童の割合 (就学前児童)	咸少 2	7.3% 2	22.7%	26.6 % 3.9 pnt	3			いずれも高水準を維持。	
		② 地域等と連携した家庭の教育力の向上	0	3	1	0	2	る」と回答した児童の割合	9230年度】	2.9%	92.0%	92.4 % 0.4 pnt	2	2	В	[評価]>これまでの啓発等の取組みにより、食事等の基本的な生活習慣を身につけることの重要性が、家庭内でも浸透してきたと考えられる。	
		③ 非行や虐待を生まないための家庭の 教育力の向上							30年度】	1.6%	90.5%	90.8% 0.3 pnt	2	-		>朝食の内容の充実が必要な家庭が存在する。ま 親の勤務の影響を大きく受ける就寝時間につい は、親の意識向上だけでは、改善が難しいと考え	
			1	1	0	0	18/19事業		増加 89	9.8% 8	87.5%	88.8% 1.3 pnt	2	-		<u>れる。</u> [今後の方向性] ➢引き続き、基本的生活習慣に加え、生活の質の	
		===	3	15	15 1 0	94.7%	(中学3年生) 増	曽加 84	4.9% 8	86.6%	80.3 % ▲ 6.3 pnt	3			にも視点をあてるなど、さらなる家庭の教育力に 目指す。また、働き方の見直しなど、社会全体で も中心の生活スタイルに改善する機運を高めて		
(5	5) 仕事と生活 の調和							仕事と生活の調和がとれてい ると思う人の割合 増	曾加 2	7.4%	48.0%	49.0 % 1.0 pnt	2			【指標の説明】 「指標の説明] ☆仕事と生活の調和がとれていると思う人の割合 は、前年度に比べ上昇。	
	(ワーク・ ライフ・バ ランス)の 推進	事業者等との共同による仕事と生活の 調和の推進	2	4	0	0		就学前児童をもつ父親が、家 事・育児をしている割合 (i) 家事	増加 66	6.7%	69.3%	71.9 % 2.6 pnt	2	-		☆、前午度に比べ上昇。 ☆父親の家事・育児参加率も、前年度に比べ上昇 [評価] >フーク・ライフ・パ・ランスについての市民や企業等に対	
	推進						'	(ii)育児 堆	増加 75	5.5%	90.4%	92.8% 2.4 pnt	2	2	В	る働きかけは順調で、広く意識醸成を図ることできた。 >「父母ともに」子育てをしている割合は、5割前・	
		② 男性の家事・育児への参画促進	0	5	0	0	11/11事業	主に子育てをしているのが 「父母ともに」と回答した人 の割合 (i)就学前児童	曾加 62	2.1%	51.2%	51.6 % 0.4 pnt	2	-		推移しているが、父親の家事・育児参加率は年上昇していること、また「『仕事が忙しい中、週末に可能な範囲で育児に関わる努力をしてくれてる。』『悩みや不安に耳を傾け、一緒に考えてくる。』などの声もあり、父親の家事・育児参加は着実に浸透していると考えられる。	
			2	2 9 0 0	- 100%	(ii)小学生 增	曾加 44	4.0%	51.1%	49.8 % ▲ 1.3 pnt	3			「今後の方向性」 「今後の方向性」 →引き続き、市民や企業等に対し、ワーク・ライフ・ハ・ラの実践や育児参加を働きかけていく。			
(6	⁶⁾ 安全・安心 なまちづく り	子育て家庭が利用しやすい公園・ 遊び場の整備	2	2	0	0		子どもの遊び場や公園に対す る満足度 増	増加 39	9.9% 4	48.7%	52.2 % 3.5 pnt	2			[指標の説明] *遊び場や公園の満足度は、前年度に比べ増加 *外出時に安心と感じる割合は、減少傾向にある	
	,	② 安全・安心を実感できる街づくり の推進	3	7	3	1	2	子どもとの外出時に安心と感じる割合 増	曽加 55	5.4% 4	40.5%	39.4 % ▲ 1.1 pnt	3	2		[評価] >安全に配慮した公園整備や、子育てふれあい。 ブラザなど屋内の遊び場の提供などにより、満度が上昇していると考えている。 一方で、遊具やトイレなどハード面の充実を求る。	
		③ 子育てに優しい都市環境の整備	2	3	0	0	_					,			_	声や、ボール遊びが制限(地元要望を受けた地のルール)されている公園もあり、 満足度のさらなる向上のためには、こういった引にも応えていくことが必要と考えられる。	
		④ 子育てしやすい住環境の提供	4	3	0	0	30/34事業							B	➢地域の治安・通学路を含めた道路環境など、タ時に安心と感じられるよう、更に改善に取り組む必要がある。 なお、小学生に対して行ったアンケートでは、タ時に「危ない」と思ったことのある子(32.0%)の2		
		⑤ 交通安全の推進	4	0	0	0							「車が通ったとき」が48.4%で最も多く、次いで「園で遊んでいるとき」(20.3%)、「自転車に乗っいるとき」(18.8%)となっている。				
		<u> </u>	15	15	3	1	- 88.2%									[今後の方向性]⇒安心して子育てができるよう、公園・道路等の動力改善に取り組むとともに、防犯意識や交通ルービ、子どもを含めた個人や地域の安全意識の動図っていく。	

Th. 675	+ F- 75 F-	15		活動	の状況				成果指標 H26年 H27年 指揮 # H28年度 対前年度比				成果の評価		炸牛の炒☆ Ⅲ压		
政策	施策	柱	大変順調	順調	やや遅れ	遅れ	活動の評価	指標	H26 度 実	6年 H27年 度 事績	H28年度 実績	対前年度比	成果の	評価	施策の総合評価		
2 子どもの育 2 ちを支える 幼児期の学 校教育や保 育の提供	(7) 幼児期の学 校教育や保 育の提供	① 保育の量の確保と教育・保育の 質の向上	13	16	7	2		保育所待機児童数 (4月) 保育所待機児童数 (10月)	0人 0人 [H30.31年度]	人 0人	0人	±0 9 人	3		[指標の説明] *保育所待機児童(4月時点)は、0人を維持。 *保育所待機児童(10月時点)は、若干増加(9人)。 *幼稚園・保育所の満足度は、過去3年間をみると 概ね85%前後を推移している。		
		② 幼稚園、保育所等における多様なニー ズに対応した保育サービスの充実	4	3	0	0		幼稚園・保育所に対する満足度(施設・環境) (i) 幼稚園	[H30.31年度] 向上 68.	5% 86.9%	79.7%	(6.5%) ▲ 7.2 pnt	3		[評価] →保育所の定員増、小規模保育事業の開設、認定 こども園への移行支援、一時預かり事業(幼稚園 型)などを行い、受入児童数の拡大を図ったことに より、引き続き年度当初の待機児童ゼロを達成する ことができた。		
		③ 幼稚園、保育所等における障害児保育 の充実	2	7	0	0	2	幼稚園・保育所に対する満足度(施設・環境) (ii)保育所	向上 72.	5% 86.1%	86.1%	±0	2		⇒「景気の好転により、女性の社会進出が一層進んでいること」「積極的な保育の受皿の拡充が新たな需要を掘り起こしていること」等により、想定を上回る勢いで保育ニーズが高まっている中、就職説明会の開		
		保育所、幼稚園等と小学校の連携の	0	1	0	0		幼稚園・保育所に対する満足度(教育・保育の内容) (i)幼稚園	向上 74.	2% 89.6%	85.4%	▲ 4.2 pnt	3	2	B 催や保育士・保育所支援センターの運営強化などの取組みにより、保育士確保に努めた。 ⇒学校関係者評価や第三者評価を通じ、幼児期の学校教育や保育の質の向上に取り組んだ。		
		充実						幼稚園・保育所に対する満足度(教育・保育の内容) (ii)保育所	向上 84.	4% 89.3%	87.1%	▲ 2.2 pnt	3		及教育や保育の員の同工に取り組んだ。 →延長保育や一時保育など親の働き方等に応じた多様な保育サービスを提供するとともに、新たに特別支援教育助成事業を創設し、特別な教育的支援を要する幼児の就園先を確保することができた。		
		⑤ 幼稚園、保育所等における子育て支援 の充実	5	8	1	0		幼稚園における学校関係者評 価実施施設数	90施設 54施	設 54施設	82施設	28 施設 (51.9%)	1		要する切児の就園元を確保することができた。 [今後の方向性] →施設の老朽化や園庭の広さなどについての意見も 寄せられており、今後も高い満足度を維持していく ためには、ハード面の整備も必要と考えられる。 また、教育・保育の内容の満足度を維持していくため		
		⑥ 教育・保育に関する情報提供	1	2	0	0	62/72事業	保育所における児童福祉施設	全施設 150 設	施 156施	158 施設	2 施設	2		には、職員配置や処遇の改善、職員の事務負担の 軽減に取り組んでいくことも必要である。 →引き続き、年間を通じた待機児童の解消、満足度		
		≣†	25	37	8	2	86.1%	等第三者評価の実施施設数	【H31年度】			(1.3%)			向上のため、ソフト・ハード両面から、幼児期の 学校教育や保育の質と量の向上に取り組んでいく。		
3 子どもや若 者の健やか な成長や自 立を支える 環境づくり	クラブ	① 放課後児童クラブの運営基盤の強化	1	1	0	0	1	放課後児童クラブの待機児童 数 (4月)	0人 0 <i>/</i>	0人	0人	±0	1		[指標の説明] *ケラブの待機児童数は0人を維持。 *施設・環境の満足度は過去3年間をみると、 概ね65%前後で推移している。 *開所時間等の満足度は前年度に比べ増加している。 [評価]		
		② 放課後児童クラブの魅力向上	0	5	0	0	7/7事業	放課後児童クラブに対する満 足度 (i)施設・環境	向上 61.	9% 65.8%	64.3%	▲ 1.5 pnt	3	2	B →希望する全ての小学児童を受け入れながら、 平成23年度以降、待機ゼロを維持している。 →19時まで開所しているクラブの割合が前年度に比べ 大幅に増加しており(実施率 12.0%→33.8%)、 開所時間等の満足度の向上につながっていると考え られる一方、夏休み期間や土曜日の朝の開所時間を 早めて欲しいという声も寄せられている。		
							100%	放課後児童クラブに対する満足度 (ii) 関所日・関所時間	向上 76.	2% 73.4%	% 74.9%	1.5 pnt	2		→ なお、小学児童を対象に行ったアンケートでは、92.6%が 「クラブは楽しい」と回答しており(前年度アンケート 93.0%)、子どもの満足度は依然として高い状況で ある。		
		計	1	6	0	0									[今後の方向性] → 放課後児童クラブの施設整備や利用内容の充実 など、引き続き運営基盤の強化を図る。		

				 活動(D状況				成果指標									
政策	施策	柱	大変順調	順調	やや遅れ	遅れ	活動の評価	指標	H26年 度 実績	H27年 度 実績	28年度 対前年度比	成果の評	猫	施策の総合評価 				
3 子どもや若者の健やかなたもう	全育成	① 青少年への社会体験活動等の機会や 場の提供	10	20	2	1		青少年ボランティアステーションにおけるボランティア 増加 体験活動者数			734人 319 人 (5.9%)	2		[指標の説明] *青少年のボランティア体験活動は増加。 *非行者率は着実に低下。				
立を支える環境づくり		② 有害環境から青少年を守り、非行を未 然に防止するための取り組みの推進	3	5	1	0	2	非行者率 (少年人口1,000人あたりの 人数)		7.9人 6	5.4人 ▲ 1.5 人 (▲19.0%)	1	,	[評価] >・青少年ボランティアステーションでは、青少年の 成長に欠かすことのできない体験活動に参加 する青少年の数が年々増加しており、青少年の				
		③ 危険ドラッグをはじめとする薬物の乱 用防止対策の推進	0	3	0	0		いじめの解消率 (i) 小学生 【H30年度	91.5% £]	9月	ー — 引に全 一斉公 のた	_		健全育成は、着実に進捗していると考えられる。 ⇒非行者率は、減少の一途を辿っており、非行防止教室・薬物乱用防止教室の実施や、地域・学校・警察等と連携した支援体制が成果をあげていると				
		④ 不登校やいじめの未然防止、解消に向けた取り組みの推進	0	4	0	0	46/50 _{事業}	100% (ji)中学生 【H30年度		97.6% ් හ ්	数値	-		考えている。⇒いじめ・不登校等の問題については、確実な実態 把握に努め、スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの				
		⑤ デートDV予防啓発の推進	1	0	0	0	92.0%			_				配置や関係機関との連携により、きめ細かな対応 を行っている。 なお、いじめについては、9月に全市一斉調査を 行い、把握した事案を全て解決している。				
		計	14	32		32.070							[今後の方向性] ➢引き続き、関係機関等と連携し、青少年の健全育成に取り組む。					
	(10) 子ども・若 者の自立や 立ち直りの 支援	① 若者の自立を支援する環境づくり	2	4	0	0	1	500人 「YELL」来所相談者の就業 等実績(累計) 【H31年度		291人 3	37人 46 人 (15.8%)	1		[指標の説明] ※若者の自立をサポートする「YELL」の来所者の就業等 の実績が向上。 ※非行歴のある青少年の雇用主の受入は増加。				
		② 非行からの立ち直りを支える取り組みの 推進	0	4	0	0	10/10**	北九州市協力雇用主見舞金登 Hé hn	4-1		72.1 55 人		1	[評価] →子ども・若者応援センター「YELL」において、悩みや課題を抱える若者に対し、自立に向けた支援等を継続的に行った結果、今年度は46名が就労・就学に至り、毎年、着実に自立につなげることができている。 →非行歴のある青少年を受け入れる協力雇用主は、156社から185社に増加し、受入体制の強化につながっている。				
		≣ †	2	8	0	0	100%	録者数 增加	17人	1/2 /	(323.5%)	1		[今後の方向性] ➢若者が社会生活を円滑に営むことができるよう、 引き続き、自立を支援する環境づくり、非行からの 立ち直りを支える取組みを進めていく。				

	15-55	15		活動	の状況					果指標			成果の評価			佐笙の松仝≡□ 歴		
政策	施策	柱	大変順調	周順調	やや遅れ	遅れ	活動の評価	指標		H26年 度 実績	H27年 度 実績	H28年度 実績	対前年度比	成果(の評価		施策の総合評価	
4 特別な支援 を要する子 どもや家庭 への支援	(11) 社会的養護 が必要な子 どもへの支 援	① 児童養護施設における生活環境整備等の 促進	0	7	0	0	1	地域小規模児童養護施設・小 規模グループケアの実施か所 数		13か所	15か所	16か所	1 か所	2		*家 施	標の説明] 	
		② 里親や小規模住居型児童養育事業(ファミリーホーム)の普及促進	0	3	0	0	10/10事業		【H31年度】	14.2%	17.5%	20.8%	(6.7%)	1	1	>地 社 安 号 >里	世域小規模児童養護施設を増設したことにより、 会的養護が必要な子どもが、家庭的な環境と 定した人間関係のもとで、きめ細かなケアを けられる体制が拡大した。 型親制度やファミリーホームの普及啓発を行った結果、 1親等の委託率が20%に到達し、それぞれの そどもにあった養育環境の整備を進めることが	
		≣†	0	10	0	0	100%	要保護児童数に対する里親・ ファミリーホーム委託率	【H31年度】				3.3 pnt			で [今後 > 今	後の方向性] 徐後も、社会的養護が必要な子どもが健やかに 「まれ、自立できる社会環境整備に努める。	
	(12) ひとり親家 庭等への支 援							ひとり親家庭の就業を支援する施策の利用数(母子・父子福祉センター延べ利用者数)		10,252人	10,015人	. 11,323人	1,308 人	1		*母 *ひ *ひ H2	標の説明] 計子・父子福祉センターの利用者数は、増加。 トとり親家庭の支援・相談窓口のうち、子ども・ 民庭相談コーナーを知らない人は減少。 トとり親家庭の親の就業率は、母子・父子ともに、 23年度比で増加。	
		① ひとり親家庭の生活の安定と向上	2	10	1	0	2	ひとり親家庭の支援・相談窓 口を知らない人の割合 (i) 母子・父子福祉セン ター		58.8%	39.8%	52.1%	12.3 pnt	4		福; 以. >>子	価] >とり親家庭の支援・相談窓口である母子・父子 社センターの延べ利用数は、前年度比で1千人 と上増加しており、多数の支援を行うことができた。 -どもの居場所づくりの取り組みとして、仕事などの 3合で保護者の帰宅が遅くなるなどニーズのある	
								(;;) 子ども・家庭相談コーナー	減少	11.8%	14.5%	9.6%	▲ 4.9 pnt	2	2	家。 をが出 出 B →ま	限度の子どもであれば誰でも利用できる子ども食堂 モデル事業として市内2ヶ所で開始し、今後、民間 運営する子ども食堂の拡大に向けた一歩を踏み すことができた。 に、ひとり親家庭への支援として、新たに「ひとり	
		② 子どもの貧困対策	2	14	1	o	28/30事業	ひとり親家庭の就業率 (5年に一度調査を実施) (i) 母子家庭 [H23 83.6%]	増加	-	-	87.9%		-		の。 る。 メ ト 向 経 と	限家庭面会交流支援事業」を開始し、ひとり親家庭 り生活の安定と向上につながる取組みをさらに進め ことができた。 そどもの貧困対策については、小中学生の保護者 けに子ども生活状況等に関する調査を実施し、 経済的な事情でどのような違いがあるのか把握した ころであり、今後の施策推進のための基礎資料を もことができた。	
							- 93.3%	(ii)父子家庭 [H2 3 91.8%]	増加	-	_	94.2%		-		>引 こと ん・ >子	後の方向性] き続き、ひとり親家庭が自立し安定した生活を営むとができるよう、生活支援や就業支援などに取り組っていく。	
		ā†	4	24	2	0										果: と道	を踏まえ、効果的な施策の推進に向け、関係部局連携していく。	

	15.55	1-		活動の	の状況				指標		T	. –			15-15-1-10 A			
政策	施策	柱	大変順調	順調	やや遅れ	遅れ	活動の評価	指標	H26年 度 実績	H27年 度 実績 実績	年度 対前年度比	成果の	の評価	施策の総合評価 				
4 特別な支援を要する子どもや家庭への支援		① 児童虐待の発生予防・早期発見・早期対応お よび適切な支援	0	11	0	0	1				au. 312 件				[指標の説明] ※児童虐待対応件数は増加 [評価] >別童虐待の発生予防・早期発見等を図るため、関係職員等に対する研修会を実施するとともに拠点病院に配置した児童虐待専門コーディネーターを活用する「児童虐待防止医療ネットワーク事業」のさらなる推進を図るなど、対応強化を進めた。			
		≣†	0	11	0	0	11/11 _{事業}	児童虐待对応件数 減少 4	154 (†	606件 918	(51.5%)	-	_	A	➤ 結果として、児童虐待対応件数は増加傾向にあるが、これは取組み強化によって、潜在化していた事案の掘り起こしにつながっているためであると推測され、「早期発見・早期対応」という本市の目指す取り組みが進捗しているものと考えている。 [今後の方向性] > 児童虐待対応件数の推移を注視しつつも、引き続き、関係機関と連携し、児童虐待発いている。			
	(14) 障害のある 子どもへの 支援	① 障害のある子どもの早期発見と相談・ 支援体制	5	11	0	1		専門機関・施設等に相談する 増加 5割合	50.8%	47.7% 72 .	1 % 24.4 pnt	1	1		[指標の説明] 子どもの成長や発達、障害に関する不安等について ☆専門機関・施設に相談する人の割合は、増加。			
		保育所等での障害のある子どもの受け入 ② れや保育内容の充実と、小学校等入学時 の情報伝達の強化	2	3	0	0		相談する相手がいない人の割 維持	5.0%	4.5% 4.2	2 % ▲ 0.3 pnt	2	1		(なお、今回のアンケートでは、質問の仕方を変更し、 「相談できる専門機関等がある」と回答した率では なく、「不安等を感じたときに専門機関等に相談し たいと思う」と回答した率を集計した。)			
		③ 障害のある子どもの放課後対策の充実	2	2	0	0	1			·					*友人や家族を含め、相談できる相手が全くいない 人の割合は微減。[評価]>平成28年4月1日に、総合療育センター西部分所が			
		ライフステージを通じた相談支援体制の ④ 強化とレスパイトなど保護者の負担軽 減の充実	1	13	0	1								A	開所したことに加え、総合特別支援学校が2校開校し、障害のある子どもに対する支援体制の充実が図られた。			
		⑤ 重度の障害のある子どもへの支援の強化	2	11	0	0	61/63事業								▶障害のある子どもの早期発見と相談・支援、全保育所での障害児の受入態勢の整備、就労支援コーディネーターによる高等部卒業生の就労支援など、障害のある子どもの成長過程に応じた支援を行い、障害のある子どもが安心して生活できる社会環境づくりを着実に推進することができた。			
		⑥ 発達障害のある子どもへの支援の充実 計	2 14	7	0	0 2	96.8%								[今後の方向性] ▶引き続き、子どもの成長過程に応じ、切れ目なく相談 や支援を行い、必要な時に必要な支援を受けること のできる環境整備に取り組む。			